令和5年度　大阪市文化事業

資料4－1

施策の方向性A「文化にかかわる環境づくり」

①芸術文化を鑑賞等できる機会の充実

事　業　名	実　績　・　評　価
舞台鑑賞会 （能・狂言、 上方芸能、歌舞伎）	【事業実績など】 ・能狂言 「こどもと楽しむ能狂言」R6.1.28（２回）　大槻能楽堂：計826人 「初心者のための能狂言」R6.2.18　大槻能楽堂：計420人 ・上方芸能 「上方芸能華舞台」R6.3.8　天満天神繁昌亭　約200人（集計中） 「初心者のためのはじめての寄席　繁昌亭」　R6.3.23　210人（集計中） 「繁昌亭・春休み こどもらくご教室」（小学校低学年向け）R6.3.20.23　計382人（集計中） 「繁昌亭・春休み こどもらくご教室」（小学校高学年向け）R6.3.24　200人（集計中） ・歌舞伎 歌舞伎鑑賞会の参加者数：545人　※募集時点では、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から会場内での昼食が認められていなかったため、参加を断念する学校あり。
	【アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ・新型コロナウイルス感染症の影響が落ち着き、学校への広報活動が強化されたことは評価に値する。この努力により、3回開催された「能狂言」の鑑賞会は開催前に完売しており、目標を上回る1,246人の参加者を迎えることができた。 ・能装束の展示や写真撮影が許可されるなど、伝統芸能の雰囲気を感じる工夫がなされていた。さらに、会場整備員が袴を着用するなど、伝統芸能の雰囲気を醸成する工夫がなされていた。能楽協会が発行する「学んでみよう能・狂言」の冊子は、能・狂言の起源や舞台・楽器について分かりやすく解説し、子どもや初心者が興味を持ちやすいよう工夫されていた。特に公演の前半で行われた能の衣装や所作の解説、お囃子ワークショップは、観客が太鼓のデモンストレーションを体験するなど、参加型のアプローチが好評のようであった。 ・一方で、「歌舞伎」に関しては、新型コロナウイルス感染症の影響で参加募集時に会場内での昼食が許可されず、参加希望校が少なく目標達成が難しい状況であった。しかし、参加した小学生の約80%、中学生の約89%が公演に対して「とてもよかった」「よかった」と回答しており、来年度からは参加募集時において会場内での昼食が可能になるため、参加しやすい環境が整備される見込みである。これを踏まえ、早期に学校への案内を実施し、年間行事に組み込んでもらえるよう働きかけることが望まれる。 ・上方芸能は大阪が世界に誇る舞台芸術であり、その伝統と文化を体験し、知ることの重要性は言うまでもない。これらの文化芸術活動が社会にどのような価値を生むかを考える機会を持つことは、文化の本質的な価値を理解し、観光資源としての可能性や都市魅力の根幹を形成することへの認識を深める良いきっかけとなる。文化芸術が社会に無くてはならない存在であることを、幅広い人々が学ぶ機会となって欲しい。
舞台鑑賞会 （演劇）	【事業実績など】 ・児童演劇「卵をとるのはだあれ？」　R6.1.14（公演２回）　大阪市立こども文化センター ・来場者数合計：計371人
	【アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ・本年度に開催された演目「卵をとるのはだあれ？」は、その内容がより低年齢の子どもたちに訴求できるよう設計されていたため、未就学児の観劇が多く、アンケート結果にもその満足度の高さが如実に表れていた。このことは非常に評価できる点である。 ・開催場所を大阪市立こども文化センターに設定したことも、その成功に寄与した可能性が高い。この施設を普段から利用しているファミリー層に対して本事業の情報が行き渡り、相乗効果を生んだと考えられる。しかしながら、本施設で行われるイベントの多くが無料であることから、今回の集客においてこの点がプラスに作用したのか、あるいはマイナスに作用したのかの分析が必要である。この分析を次年度以降の会場選定に活かして欲しい。 ・未就学児の入場料が500円と安価である一方で、両親同伴で参加するケースが多く、一般入場料が2,000円であることを考慮すると、総額では比較的高額になりうる。家庭で演劇鑑賞の習慣があればこの価格も受け入れられるかもしれないが、そうでない場合は抵抗感を持つ可能性がある。未就学児とその親御さん向けのセット券の導入などを検討して欲しい。 ・公演のプロモーションにおいて、チラシのデザインは非常に重要な要素である。本公演のチラシは、演目の内容や入場料の情報など、必要な情報が一目で理解できる形で表面に配置されていない。また、公演のイメージを想像させるのが難しい点も見受けられる。過去の公演映像や写真があれば、それらを元にデザイナーやイラストレーターに現代の子どもたちが興味を持つようなアニメ風のビジュアル作成や、現在流行っているアニメやゲームの色使いを参考にすることで、より子どもたちが演劇に対して抵抗感を持たず、身近に感じることができるチラシを作成することが可能である。演目や受託者との協議でより良いプロモーションを検討する必要がある。 ・舞台芸術という言葉には、演劇という枠組みを超えて、さまざまな表現分野が含まれる。これには、昨年度に実施された人形劇もそうであるが、オペラやミュージカルといったセリフと歌唱が融合した音楽劇なども含まれる。特に大阪では、これら多種多様な舞台芸術が盛んに行われており、本事業を通して大阪の舞台芸術の幅広さを示すことにも意識すべきである。 ・大阪は小演劇の街としての地位が高く、その数や多様性は世界的にも評価されている。高いクオリティの演劇公演を青少年に提供するだけでなく、大阪の演劇文化の素晴らしさを伝え、大阪に対する誇りを持つことができるような取り組みを検討することが望まれる。これにより、演劇を始めとする舞台芸術を通じて文化的アイデンティティを育むことが可能となるのではないか。

②芸術文化を将来へ継承発展させる子どもや青少年が成長する機会の充実

事　業　名	実　績　・　評　価
中学生が参加するコンサート	【事業実績など】 ・「はじめましてオーケストラ」（R6.3.26開催予定 ザ・シンフォニーホール） ・参加中学生数：約520人 ・来場者数：793人（R4実績）
	【アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ・日本が直面している少子化の影響により、中学校における吹奏楽部の人数は減少しているが、その結果学校における大規模なアンサンブルの実施を困難にしている。このような状況の中、大阪市内の中学校から選抜された生徒がプロフェッショナルオーケストラと合同で演奏する機会を得ることは、価値ある取り組みであり、生徒たちにとっては貴重な経験となる。 ・本年度は、過去最大規模となる24校、520名の生徒が参加しており、事前指導を受ける学校も新たに6校が加わり計22校に拡大した。しかし、参加生徒数の増加に伴い会場の座席数が減少し、結果として観客の確保が難しくなる。このような状況にもかかわらず、大阪市文化課と受託事業者である大阪フィルハーモニー交響楽団は、できる限り多くの生徒が共演できるように生徒の受け入れ対応をした。参加を断る生徒の数を極力減らすためのこの努力を高く評価したい。 ・事業実施者の選定に関しては、公募型プロポーザルを通じて行われているが、現在は実質的に1社のみの応募に留まっている。これからは、より多くの事業者が参加できるように、募集条件や仕様書の見直しが求められる。さらに、現在の委託金額では、本番の開催は可能でも、事前の合同練習に必要な練習場を確保することが経済的に難しいという問題がある。この点に関しても、適切な予算処置を講じる検討をして欲しい。 ・コンサートの選曲に関しても、毎年似たような曲目になりがちな点を改善し、生徒が新たな挑戦をできる選曲を含めることも必要である。事業終了後のアンケートを通じて、生徒や顧問の先生からのフィードバックを収集し、それを基にしたプログラムの改良を進めて欲しい。これにより、参加者のニーズに合わせたより良いプログラムの実施を期待する。
舞台鑑賞会 中高生のための文楽 夏休み親子ペア文楽	【事業実績など】 ・「文楽鑑賞教室」R5.6月　国立文楽劇場　参加者数：2,216人 ・夏休み文楽特別公演「親子劇場」　R5.7月～8月　国立文楽劇場　参加者数：2,218人
	【アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ・「文楽鑑賞教室」は、2,216名の参加者を迎えた。年度当初の目標参加者数を超えることは出来なかったが、学校への案内を締め切り後に再度実施した結果、申し込み校が増加した。この対応策により参加者数を増やすことができたと評価したい。 ・「夏休み親子文楽」は、8月3日から5日の間に予定されていた公演が出演者の体調不良により中止となったが、それでも2,218名の来場者を集め、年度当初の目標参加者数を超える結果となっていた。 ・本年度から、これらの公演では参加者に対してアンケートを実施することになり、「文楽鑑賞教室」でのアンケート結果では、小学生の約95%、中学生の約96%が文楽を見たいと回答。また、「夏休み親子文楽」のアンケートでは、アンケート回答者のうち、実際に参加された方の約96%が再び見に行きたいと回答した。これらの結果は、文楽が一部で理解しにくいイメージがあるにもかかわらず、子どもたちには非常に親しみやすく、楽しめる芸能であることを示している。子どもたちがこのような大阪発祥の古典芸能に親しむことは、文楽をはじめとする古典芸能の認知を高め、大阪のシビックプライドの醸成に寄与する重要な事業であると言える。 ・しかし、子どもたちが鑑賞する機会は自身の判断だけでなく、周囲の大人たちの判断に大きく依存している。今後の広報努力においては、文楽をはじめとする古典芸能の鑑賞に限らず、ポップスやロックを含む音楽や、国語や歴史など、様々な分野の教師や親御さんたちに興味を持ってもらい、それらと文楽の関連性の強調することにより文楽に興味を持ってもらい、その結果より多くの子どもたちに文楽と触れ合う機会提供につなげて欲しい。
こども本の森中之島運営事業	【事業実績など】 ・施設の運営にかかる満足度92%
	【アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ・本施設の魅力として、本の置き方に工夫があり、テーマ別に分類された読みたくなるような仕組みが導入されている。また、新しい本や他では見かけない本が豊富にそろえられており、これが他の児童図書館との差別化要因となっている。イベントも多数開催するほか、職場体験受け入れや、高校生による自作絵本の読み聞かせ会・大学生によるワークショップや演奏会などイベントを開催し、日頃の取り組み成果を披露できる場の提供をしていた。充実した活動をして、文学を中心とした良質で多様な芸術文化等に触れる機会提供を達成していることを高く評価したい。 ・管理運営面においては、全ての運営費が協賛企業等からの寄付によって賄われており、この図書館が地域社会において必要とされていることの証しである。 ・現状は施設も新しく、運営も順調であるものの、5年から10年の間に施設の老朽化が課題として浮上することとなる。特に、安藤建築のユニークな設計のため、将来的な改修作業が非常に大変になることが予想される。このような背景から、将来に向けた財源の確保と収入源の多様化が必要になると考える。

③芸術文化を支える市民意識の醸成

事　業　名	実　績　・　評　価
芸術・文化団体 サポート事業	【事業実績など】 ・R5年度実施分　対象団体：23団体　寄付金額：6,674千円（R6.3月18日時点）
	【アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ・新しいリーフレットやウェブサイトを通じて対象団体の写真や活動紹介を盛り込むなど、周知活動に着実な改良を加え、その質を高めていることを評価する。しかし、昨年度に比べて寄付件数および収入額が117件・6,661千円と下降し、本年度の目標である195件を大きく下回っている現状である。この減少は、新型コロナウィルス感染症が5類に移行され、社会全体の緊張が和らぎ始めたことにより、文化芸術への支援に対する意識が徐々に低下していることが一因であると考える。これは、コロナ禍の影響が薄れる中で、本事業がこれまで以上に重要になってくることを意味する。 ・日本における寄付文化の醸成は容易ではないが、確立された制度を通じて寄付者に提供されるメリットは大きいものがある。この点を踏まえ、本事業の周知を促進するだけでなく、寄付によって生じる文化芸術の波及効果や、寄付者自身にとってのメリットを明確に伝え、寄付行為に対するポジティブな印象を植え付ける取り組みが必要となる。 ・また、本事業の成功は、登録団体が提供される機会をどのように活用するかに大きく依存することとなる。そのためにも、大阪アーツカウンシルや大阪市の他事業と連携し、寄付などの支援の呼びかけを促進する講座などの提供を継続することが必要である。これにより、事業者がこの仕組みを有効に活用し、既存の補助金や助成金に加え、資金調達の新たな手段を構築できるようになることを期待したい。

施策の方向性B「文化が都市を変革する」

①芸術文化を創造する人材や支える人材の育成・支援

事　業　名	実　績　・　評　価
芸術活動振興事業 助成金	【事業実績など】 ・申請件数 一般助成：上期104件／下期133件　特別助成：111件　合計： 348件 ・交付決定件数 一般助成：上期67件（うち中止5件）／下期72件（うち中止4件）(2月末時点集計) 特別助成：30件（うち中止2件）　合計：169件 （うち中止11件）
	【アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ・多様な文化芸術活動やそれらの担い手を支え、国際文化都市としての大阪の発展には、本事業は無くてはならないものである。また、個人として活動するアーティストや民間の文化芸術団体・法人が自治体と関わる接点となり、大阪市や大阪アーツカウンシルとのコミュニケーションを取ることのできる機会となっている。 ・新型コロナウイルス感染症が第5類に移行されたことにより、社会の様々な面で徐々に日常が戻りつつあるものの、文化芸術業界は依然として厳しい状況に直面している。さらに、新型コロナウイルス対応のために実施されてきた補助金や助成金が次々と終了しており、文化芸術活動を継続する個人や団体にとっては、さらに厳しい状況になっている。この困難な時期に、昨年度に引き続き、特別助成枠は従来の400万円上限から600万円上限までの拡充が実施されたことは、非常に重要であり、高く評価されるべき点である。 ・本年度からX（旧Twitter）を活用して採択事業の広報協力に積極的に取り組んでいた。この新たな取り組みは、本助成金の認知度の向上と採択活動の紹介に貢献しており、その成果を評価したい。 ・昨年度の事業評価を受け、令和6年度から一般助成A（上限20万円）、一般助成B（上限50万円）、特別助成（上限400万円）の3種類に助成の種類の拡充がなされた。また、ウィズコロナにおける対策が終了する中で、本助成金の予算がコロナ以前に戻る予定だったが、予算の拡充を図り、昨年度とほぼ同額の予算を一般財源で確保することができた。この予算拡充と助成制度の改正により、助成制度の成果をさらに高めることができることを高く評価したい。 ・しかし、現行の制度では対象経費や対象外経費が現代の多様な文化芸術活動に必ずしも適合していないという課題がある。また、申請者が併用して使用する大阪府、日本芸術文化振興会、文化庁の各種補助金との制度と本助成金の制度に大きな乖離があることも、申請者の負担になることを追記しておきたい。これらの問題を意識し、新しいフェーズに適した本助成金制度の設計に向けた見直しを求めたい。
咲くやこの花賞 咲くやこの花賞 受賞者等支援事業	【咲くやこの花賞受賞者等支援事業実績など】 ・咲くやこの花コレクション： 「一穂ミチ トークショー『わたしの小さな大阪』」（R5.11.11大阪歴史博物館　講堂）ほか４プログラム ・受賞者のインタビュー記事の発信：５回（予定）
	【咲くやこの花賞実績など】 ・贈呈式：R6.2.13　大阪市中央公会堂 ・受賞者：(美術部門：現代美術)田中秀介　(音楽部門：現代音楽)坂東祐大 (演劇・舞踊部門：能楽)大槻裕一　(大衆芸能部門：浪曲)京山幸太 (文芸その他部門：小説)千葉雅也

咲くやこの花賞 咲くやこの花賞 受賞者等支援事業	【アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ・「咲くやこの花賞」は、多様な才能を持つ大阪ゆかりの文化芸術人材を顕彰することで、大阪の文化芸術に対するシビックプライドを高める重要な取り組みである。 ・昨年度から、より透明性の高い運営を目指し、事業者の選定に公募型プロポーザルを導入したが、現状では提案が1者に限られている。事業者選定からイベント実施までの期間が限られており、受賞者のスケジュール調整やイベント内容の確定に難しさが伴っている可能性がある。次年度からは大阪市文化課が事前に受賞者と調整を行い、コレクションの実施時期の目安を設定するなどの対策を考えて欲しい。また、これまでの贈呈式やコレクションの費用内訳を公開することで、より多くの提案事業者がアイデアを持ち寄り参画する手助けとなりうると考える。 ・贈呈式は、単に賞を授与する場に留まらず、イベント性が高く、参加者にとって記憶に残るものであった。特に、受賞者のトークセッションは、その人柄が際立つ面白い内容であり、この魅力的な側面を広報活動を通じて広く伝えることも重要である。 ・贈呈式後に受賞者のトークを10分程度にまとめた動画をSNSで共有することを提案したい。贈呈式の参加者や受賞者本人たちが動画を共有することにより、その拡散力を大幅に増加させ、贈呈式の魅力がより広範囲に伝わることになる。また、受賞者にとっても、これらの動画は自身の宣伝材料として価値があり、受賞の意義をさらに高めることに寄与する。また、咲くやこの花賞受賞者等支援事業（咲くやこの花コレクション）の実施の際にも使用できる。
大阪文化賞 大阪文化祭賞	【大阪文化賞実績など】 ・受賞者：冨田　一樹（芸術・音楽） ・贈呈式：R6.3.6　シティプラザ大阪
	【大阪文化祭賞実績など】 ・受賞者： 　【第1部門】「壇浦兜軍記　阿古屋琴責の段」出演者一同：「初春文楽公演『壇浦兜軍記　阿古屋琴責の段』」の成果 　【第2部門】態変：「私たちはアフリカからやってきた」の舞台の成果 　【第3部門】日本テレマン協会：「第300回定期演奏会」の成果 ・贈呈式：R6.3.22　NCB会館
	【アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ・大阪文化賞および大阪文化祭賞は、大阪府内で活躍する文化芸術の分野で優れた業績を挙げた人々を顕彰することにより、地域文化の発展や文化芸術の振興を図るという重要な役割を果たしている。本賞は、大阪の文化芸術の豊かさを広く証明するものであり、長い歴史を持つ顕彰として、受賞者にとっては大きな励みとなり、さらなる芸術・文化活動の発展に繋がることが期待できる。 ・大阪文化賞の推薦件数と候補者数を増やすために、X（旧Twitter）やFacebookでの広報、パンフレットの配架先の拡大、申請様式の変更、市町村会議や府イベントでのPRなど、多角的な取り組みが行われた。その結果、府民からの推薦が件数で30件、候補者数で12件増加した。これらの取り組みは、推薦委員や選考委員だけでなく府民にも、大阪における文化芸術活動に意識的に目を向ける機会を提供し、大いにその意義が認められる。 ・賞の公式ウェブサイトでは、過去の受賞者の基本的な活動情報や受賞理由の確認は可能であるが、それだけに留まっている。SNSの運用は労力と時間がかかり、現実的な課題であるが、受賞者自身がSNSを活用している場合が多い今日、授賞式の写真提供や、ハッシュタグを統一して受賞者自身による本賞の発信を促すなどの取り組みが望まれる。 ・将来に向けては、実験的な表現や分野を越えた複合的な活動が賞の対象になることも望まれる。既存の表現分野の可能性を拡張するような取り組みに目を向けることも重要であり、そうした分野に詳しい審査委員も迎え入れ、大阪における文化芸術の未来を担う賞となるよう検討してもらいたい。
織田作之助賞	【事業実績など】 ・贈呈式　R6.3.7　綿業会館 ・受賞者及び受賞作品 　　織田作之助賞：乗代 雄介氏「それは誠」 　　織田作之助青春賞：石澤 遙氏「とんぼ」 　　奨励賞：該当なし
	【アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ・1984年から始まり、本年度で40回目を迎えた歴史ある本文学賞は、大阪のみならず日本全国の文学芸術を支える顕彰事業としての役割を果たしている。この長い間に渡る功績は、大阪市にとって単なる継続している文化事業ではなく、大阪市にとって偉大な文化遺産と言える。 ・特に青春賞では、若年層の認知度が上がり、応募数が大幅に増加した昨年度に続き、本年度も同数程度の応募があった。本年度は16歳の作品が最終選考まで残るなど、若年層が文学作品への認知と挑戦を通じて、日本の文学芸術を担う人材を輩出する上で重要な役割を果たしていると考える。 ・本賞の選出は、大阪を文学の街としてのブランドを高める上で貢献している。しかし、文化芸術分野において特定の芸術家や作品を讃えることが世の中の風潮と逆行しているように見える場合もある。しかし、大阪文学振興会、関西大学や毎日新聞社などの民間事業者や団体と大阪市が実行委員会を組み、顕彰事業を行うことによって、文学における芸術性や創造性の高さや技能の継承が正しくなされることに繋がる。その芸術性や創造性の高さや技能を市民に還元できているので、本事業の意義は非常に重要と考える。 ・日本の文学芸術を支える本賞のポテンシャルは非常に高いものであると考えられる。そのため、発展的な継続に向けて、強固な事務局体制を確立し、新たな構成員や支援者を募るなどの発展的な運営体制に向けて改革を進める必要がある。

大阪文化芸術創出事業 （会場費支援事業）	【事業実績など】 ・第1期（R5.7～8月の実施事業）　287事業に交付決定 ・第2期（R5.9～10月の実施事業）　315事業に交付決定 ・第3期（R5.11～12月の実施事業）　302事業に交付決定 ※交付決定後に取消し等の申請があったため、最終交付事業数とは異なる。
	【アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ・新型コロナウイルス感染症が第5類に移行されたが、文化芸術業界は依然として厳しい状況に直面している。観客が完全に戻ることなく、多くの文化芸術活動が経済的な困難にさらされている状況である。さらに、新型コロナウイルスに対応するために実施されてきた多数の補助金や助成金が次々と終了しており、文化芸術活動を継続する個人や団体にとって、さらに厳しい状況に追い込まれている。この困難な時期において、3年目に実施された支援は、大阪の文化芸術関係者にとって非常に大きな助けとなった。継続的な支援を実現できたことを高く評価したい。 ・登録された会場の施設使用料に絞って支援対象を明確にすることで、迅速な支援を可能にしたこのスキームは、有事の際の文化芸術支援において大阪が誇るべきものと言える。本事業から得た制度やノウハウは、有事発生の際に活用すべく、今後もしっかり引き継いで欲しい。 ・しかし、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金は本年度をもって終了する予定であり、次年度からは本事業が継続されないことが決定している。これは避けられないことではあるが、多くの文化芸術関係者が持続的な活動に戻るためにはまだまだ支援が不可欠である。このため、今後の文化芸術関係者の状況を鑑み、必要であれば新たな支援策の検討が求められる。
大阪文化芸術祭事業	【事業実績など】 ・大阪国際文化芸術プロジェクトを実施 公演数：95公演 ※主催プログラム=86公演、共催プログラム9公演 鑑賞者数：93,850人 ＜環境整備＞ ・交通拠点等におけるプロモーションの実施：3か所（G7大阪・堺貿易大臣会合、キュープラザ心斎橋、とんぼりリバーウォーク） ・モニターツアー参加者：19名、FAMトリップ参加者：10名 ・クールジャパンパーク大阪夜間公演（20時開演）：来場者数445人（うち外国人205人） ・山本能楽堂特別開放（施設見学・体験等）：13日間、延べ来館者数138人（うち外国人26人） ・文化芸術施設・団体等を対象にしたセミナーの開催：7回、延べ参加者数281名 ※効果検証の取りまとめは３月中に実施予定
	【アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ・本事業は3年間の債務負担の下で行われ、その1年目を終えた。事業者の選定から事業実施に至るまでのタイトなスケジュールにも関わらず、本事業がここまでの内容で実施できた点については高く評価する。特に、受託業者が提供する文化芸術コンテンツと運営手法が影響力を発揮し、大阪の文化芸術の魅力を前面に押し出した大規模な文化芸術祭典を創出できたことは、非常に価値がある。また、インバウンドを含む来阪者が楽しめるコンテンツになっていることは、本事業の成功を示していると考える。 ・しかし、エンターテイメントと商業的な文化芸術にあまりに偏ってしまうと、文化芸術祭典の多様性と深みを損なう恐れがあり、本来の目的から逸脱する可能性があるので、気を付けてもらいたい。また、大阪の文化芸術の多様性を鑑みれば、本事業が実施される３年間にできるだけ多くの関係者の多様な活動を紹介することが望ましく、事業の連携先が特定の団体等に集中することがないよう留意してもらいたい。 ・大阪において、アーティストや文化芸術団体だけでなく、アートマネジメントの分野においても才能ある人材が一定数存在し、積極的に活動を試みている。このような背景から、公共事業として、より多くの人材が関わることができるような環境を整えることが望まれる。多様な人材の参加を促進することで、文化芸術祭典の内容を豊かにし、大阪の文化芸術の真価をさらに引き出す事業として、残りの2年間でさらなる発展を望む。 ・一般的に、文化芸術分野においても、フリーランスのアーティストなどは契約条件で弱い立場に立たされることが多く、そのような環境下においては、各種ハラスメントによりアーティストの文化芸術活動が阻害され、事業の質の低下をはじめとした結果を招く恐れがある。本事業に限ったことではないが、特に、数多くの事業を実施する場合は、公共事業を実施しているという高い意識の下、様々な対策を講じ、市民の信頼を得ながら、事業の成功につなげてほしい。 ・環境整備に関しては、文化庁の委託事業として、インバウンドを含む来阪者が地域の文化芸術を深く楽しむための環境整備が積極的に進められた。また、この取り組みには、文化芸術関係者へのインバウンド対応セミナーの開催も含まれており、これらの活動は大阪の文化芸術を支え、豊かにする上で非常に重要な意義を持っていたと考える。これにより、来阪者が地域の文化芸術をより理解しやすくなるだけでなく、関係者がインバウンド需要に対応するための知識を深める機会を提供していた。 ・試験的に実施された本事業について、プロモーションやモニターツアーの結果を分析し、その効果を検証することで、今後の取り組みに生かして欲しい。これらの結果から得られる洞察は、大阪の文化芸術の魅力をより効果的に発信するための戦略を練る上で不可欠である。 ・今後は、個々の文化芸術団体やアーティストだけでなく、旅行会社を含む観光業界との連携が重要であることを認識する必要がある。特に、海外観光客向けの情報発信において、観光分野で扱うべき内容が多いことから、今後は観光業界がどのように大阪の文化芸術コンテンツを観光資源として扱うか、などの方向性から事業内容を考えて欲しい。これに加え、観光分野と文化芸術分野の間でのマッチングを促す企画や取り組みが実現すれば、文化芸術の魅力を国内外に向けてより効果的に発信できるようになると考える。

芸術創造館管理運営	【事業実績など】 ・演劇練習室稼働率74.1％　音楽練習室52.2％（1月末現在） ・自主事業（当初計画）　芸創ナイトシアター、夏休み限定！グランドピアノを弾いてみよう、ワンコインスタジオライブ
	【アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ・新型コロナウイルス感染症が第5類に移行されたことにより、多くの分野で活動が徐々に再開している。特に舞台芸術活動は、大きな影響を受けていた分野の一つであり、本施設では、コロナ以前に本施設を利用していた文化芸術関係者の戻りがまだ見られないという報告があった。しかしながら、認知度向上と稼働率の向上を目指し、積極的な広報活動を展開しており、「芸創ナイトシアター」や「グランドピアノを弾いてみよう」といった自主事業を通じて、新たな利用者層の開拓に成功してる。さらに、NHK連続テレビ小説「ブギウギ」公式ガイドブックへの広告掲載なども行い、芸術創造館の知名度向上に努めていることを評価したい。 ・利用者からは、施設の利用に際して提供されるサポートが利用者ニーズに適切に合わせられているとの高評価が寄せられており、アンケート調査では施設利用満足度において肯定的な回答が100%を占め高い満足度を達成している。特に、スタッフの対応の丁寧さが高く評価されており、この点が利用者満足度の向上に直接繋がっていると考える。 ・開館から20年以上が経過し、機材のアップデートや施設の修繕が必要となっている現状である。大阪の演劇を始め、音楽や舞踊など様々な舞台芸術の創造環境を支えるという重要な役割を担っており、これからもその役割を果たし続けるためには、施設の維持管理とサービス向上が欠かせない。指定管理者との協議を経て、予防保全的な修繕を含めた施設の改善を進めるとともに、利用者にとって更に魅力的な施設となるよう努力していくことが求められる。
芸術創造館 ショーケース事業	【事業実績など】 ・応募団体数　29団体　選定団体数　20団体 ・ワークショップ参加者数　延べ82名 ・記録映像配信　3月下旬～
	【アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ・新型コロナウイルス感染症が第5類に移行されたことにより、社会の様々な面で徐々に日常が戻りつつあるものの、舞台芸術を始めとする文化芸術業界は依然として厳しい状況に直面している。さらに、新型コロナウイルス対応のために実施されてきた補助金や助成金が次々と終了しており、文化芸術活動を継続する個人や団体にとっては、さらに厳しい状況になっている。この困難な時期に、演劇を中心とする舞台芸術分野の活動継続を支援する本事業が昨年度に続き実施されたことは、非常に重要であり、高く評価されるべき点である。 ・特別講座では、関西圏で活躍する講師陣を迎え、次世代の舞台芸術分野を担うための育成を目指し、演技や演出だけでなく、舞台技術やアートマネジメントについても学べる機会を提供していた。コロナから回復しつつある現場において、より持続的な活動を継続するためのノウハウを提供するという点で、極めて価値がある取り組みであると考える。 ・「舞台芸術を楽しく学べる演劇体験ワークショップ～出張！ぱくっと！2024 ～」では、中央区と連携し、関西を拠点に活動する劇団によるワークショップを大阪のビジネス街である中央区のJ:COM中央区民センターで開催した。この活動は、大阪市芸術創造館以外の場所においての舞台芸術の需要創出に貢献している。 ・本事業については、新型コロナウイルス感染症が第５類に移行されたことに伴い令和５年度で廃止することになるが、コロナ禍前の持続的な活動に戻れていない一部の文化芸術関係者もいることから、これまで実施してきた結果を踏まえ、今後の若手アーティストをはじめとした文化芸術関係者の活動環境にかかる整備を考える上での参考にして欲しい。
アーティスト サポート事業	【事業実績など】 ・アンケート満足度：99% ・個別相談会参加組数：集計中（第1回：4組、第2回：7組、第3回：9組、第４回：３月２３日開催予定） ・講座開催回数：4回 ・コミュニティづくり：５回
	【アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ・新型コロナウイルス感染症が第5類に移行されたことにより、社会の様々な面で徐々に日常が戻りつつあるものの、文化芸術業界は依然として厳しい状況に直面している。さらに、新型コロナウイルス対応のために実施されてきた補助金や助成金が次々と終了しており、文化芸術活動を継続する個人や団体にとっては、さらに厳しい状況になっている。この困難な時期に、文化芸術関係者の活動環境を支援する本事業が昨年度に続き実施されたことは、非常に重要であり、高く評価されるべき点である。 ・過去2年間にわたり継続されてきた本事業であり、最初の段階では、コロナに関する直接的な相談が中心であったが、時間が経過し、特にコロナが第5類に移行される時期には、アーティストやアートマネジメントに関する相談が増え、コロナ関連の相談は減少していた。この変化は、文化芸術関係者の相談窓口に関する需要がコロナ禍だけに限らず、それ以前から存在していたことを示唆している可能性がある。 ・本事業については、新型コロナウイルス感染症が第５類に移行されたことに伴い令和５年度で廃止することになるが、コロナ禍前の持続的な活動に戻れていない一部の文化芸術関係者もいることから、これまで実施してきた２年間の結果を踏まえ、今後の文化芸術関係者の活動環境にかかる整備を考える上での参考にして欲しい。

②上方伝統芸能等の継承・発展

事　業　名	実　績　・　評　価
文楽を中心とした古典芸能振興事業	【事業実績など】 ・文楽公演「中之島文楽」（R5.10.13～14）（大阪市中央公会堂）1,276人 ・「ツーリズムＥＸＰＯジャパン 2023」（開催日：10月26日～29日）（場所：インテックス大阪） 　ミニ公演実施回数：４回 ・「文楽キャラバン」（開催日：１月26日、２月１日）（ガレリアコート（なんば）ほか３カ所） ・「みて きいて ぶんらくのおはなし 音の巻」（開催日：３月16日）（こども本の森中之島）来場者数：集計中 ・公式ホームページ　アクセス数：236,168件（1/31現在） ・フリーペーパーの配布数　約10,000部（予定）
	【アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ・昨年度に開催された「COOL文楽Show」での文楽、講談、現代美術のコラボレーションが、さらに洗練され、本年度は「中之島文楽」の中で活かされ開催された。２日間開催された「中之島文楽」は、両日とも当初販売分のチケットが完売した。また、国立文楽劇場の常連客層とは異なる新しい観客層を惹きつけることに成功しており、新たな文楽ファンの獲得に貢献していたと考える。 ・本年度実施した「ツーリズムEXPOジャパン 2023」への参画と「文楽キャラバン」は、文化観光資源としての文楽を前面に押し出したイベントであった。これらのイベントでは、観光展示会や大阪城などの人気スポットで、20分間のレクチャーを交えた実演を通じて、文楽の魅力を国内外の観光産業関係者や国内外の観光客に伝えるものであった。特に、カナダ人落語家・桂福龍氏による日本語と英語での解説が含まれることで、言語の壁を越えた普及が図られることになった。 ・新型コロナウイルス感染症の状況が落ち着きを見せる中、大阪へのインバウンド観光客は順調に回復している。2025年の大阪・関西万博を控える今、文楽をはじめとする大阪ゆかりの古典芸能の素晴らしさを、文化芸術だけでなく、観光や都市の魅力という観点からも積極的に発信して欲しい。
大阪市立美術館の魅力向上	【事業実績など】 ・大規模改修工事実施（大阪市博物館機構が実施）
	【アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ・本美術館の大規模改修工事は、あらゆる人が本質にアクセスしやすいものにし、隣接する慶沢園との一体活用やてんしばからのアプローチを含む、美術館の機能向上の増強に資するものであり、また、美術館の魅力も高めるものである。 ・本美術館は天王寺公園のエントランスエリアと茶臼山北東部エリアの天王寺地区の文化エリアに位置している。このエリアでは近年、再開発が進行中であり、利用客の層が顕著に変化し、結果として文化的な嗜好も上昇している。リニューアルオープンは、既存のファンだけでなく、新たな美術館ファンを獲得する絶好の機会となるため、リニューアルオープンの打ち出し方には工夫が求められる。 ・広報やブランディング戦略においては、この地域の文化的な発展と連動させ、多様な客層を引き付ける内容を検討する必要がある。例えば、SNSを活用したデジタルマーケティング戦略で若年層を含む新たな顧客層を引き付けることが考えられる。また、地元コミュニティとの連携を深め、天王寺エリアの魅力を全国に発信することで、より多くの人々に美術館の存在を知ってもらうことが可能となる。

③芸術文化による大阪の魅力向上

事　業　名	実　績　・　評　価
大阪クラシック	【事業実績など】 ・開催期間：R5.9.10～9.16 ・主な会場：御堂筋・中之島エリアのオフィスビルやホテルのロビー、カフェ、大阪市中央公会堂、フェスティバルホールなど ・出演楽団：大阪フィルハーモニー交響楽団、関西フィルハーモニー管弦楽団、大阪交響楽団、日本センチュリー交響楽団　Osaka Shion Wind Orchestraなど ・公演数：60公演 ・来場者数（合計）：約25，000人
	【アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ・新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことを受け、市民や観光客が再び楽しめるよう、街中での無料公演を含む多くの公演が30箇所以上の会場で再開した。これにより、有料公演22回、無料公演38回、そして動画（アーカイブ）配信15回という、コロナ前の公演数に近づくことができた。これらの公演を、安全な実施体制の下で問題なく開催することができたことを高く評価したい。 ・一部の無料公演において整理券の配布が必要になったことで、参加できなかったという声も聞かれたとのことだった。この問題に対する今後の対策の検討をして欲しい。 ・従来の公演に加えて、特別企画として「Nakanoshima CLASSIC DAY」を開催し、大阪市立中学校3校、市岡高校、清水谷高校の生徒たちに演奏の機会を提供した。さらに相愛大学の協力を得て、相愛オーケストラの出演や特別公演、子供向け楽器体験ワークショップを実施した。これらの新たな取り組みも評価すべき点である。 ・出演者が提案するプログラムを採用することにより、必ずしも幅広いオーディエンスが楽しめる選曲になっていないことがある。一部の公演においては、選曲や会場選定に専門家の意見を取り入れ、市民の目線で内容を検討して欲しい。 ・出演者が在阪の4つのプロフェッショナルオーケストラと1つのプロフェッショナル吹奏楽の団員に限定されている点について、フリーランスの音楽家や地域に根ざしたプロフェッショナルが参加できるような機会の創出が期待される。 ・実演だけでなく、制作やマネジメントにも焦点を当て、大阪で不足しているクラシック音楽分野のアートマネジメント人材育成を本事業に取り入れることを考えて欲しい。
大阪アジアン映画祭	【事業実績など】 ・大阪アジアン映画祭（開催期間：R6.3.1～3.10） 上映作品数：63作品（24の国と地域の作品） ・開催会場：ＡＢＣホール、Ｔ・ジョイ梅田、シネ・リーブル梅田、大阪中之島美術館 ・シンポジウムやワークショップ、ポスター展を開催
	【アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ・本年度は、世界24の国と地域から選りすぐられた63作品が上映され、スクリーンでの上映回数は87回に及んだ。本映画祭は、ゲスト登壇やオープニング、クロージングイベントなどの開催により、映画を愛する人々や興味がある人々にとって特別な体験を提供している。さらに、万博を見据えた特別上映「大阪万博と勅使河原宏」が行われ、万博開催に向けた機運醸成に寄与していると考える。 ・本事業の関連イベントとしては、３回目の開催となった「（だいたい）3時間で映画をつくる！ご近所映画クラブ」は、定員を上回る申し込みがあった。また、英語字幕翻訳講座では、本年度は日曜日に開催され、非常に多くの方に参加いただいた。これらのイベントは参加者からのフィードバックも良く、質疑応答も活発で実践的な学びの場となっていた。 ・大阪市文化課が所管する事業としては、本事業は大阪がアジアの文化的ハブであることを世界に示す国際色豊かな事業であり、文化芸術を通じた国際交流において重要な役割を果たしていると考える。大阪・関西万博を控える中で、大阪発の国際映画祭としての認知度が高まっていることは、今後の海外への情報発信において大きな意義となる。 ・初めて映画祭に足を運ぶ来場者にとって、映画選びは難しい課題かもしれない。そのため、好みや気分に合わせた映画選択ガイドや、おすすめの周遊ルートの提案があれば、より親しみやすいイベントになるかもしれない。 ・映画祭という名の通り、オープニングやクロージングイベントは、祝祭感あふれる演出が求められる。さらに、SNSや各種メディアを通じて映画祭自体の魅力を広く伝える取り組みが、より多くの人々にこのイベントを知ってもらうためには不可欠である。

現代芸術振興事業（ブレーカープロジェクト）	【事業実績など】 ・「作業場」「西成・子どもオーケストラ」（もと今宮小学校において実施） ・ちょちょまうヴァナキュラー（もと今宮小学校において実施） ・創造活動拠点を活用したレジデンス事業（西成区山王において実施） ・アーティストトークイベント「西成で植物を採集するということ」（大阪中之島美術館において実施）
	【アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ・「作業場」「子どもオーケストラ」「ちょちょまう ヴァナキュラー」などの活動を通じて、地域の子どもから高齢者まで幅広い層が参加し、アーティストやマネジメント人材のサポートのもと、主体的な表現活動の場を提供している。これらの活動は、安全な環境で自由な表現を促進するとともに、地域に根差した新しい表現の創出に貢献しており、先駆的で実験的なアートの実践を通じて、新たな表現領域の開拓につながっている。 ・レジデンス事業においては、西成地区の「雑草」に焦点を当てた独自のアプローチを取り入れている。雑草を単なる植物としてではなく、地域に潜む文化資源と捉え、その収集だけでなく、関連する施設や土地の物語も収集・整理して展示することで、地域に密着したソーシャルアートプロジェクトとしての価値を高めている。さらに、地元中学校の美術部にレクチャーを行うなど、地域教育との連携も果たしており、芸術と社会の架け橋となる活動を推進していることを評価する。 ・大阪や関西圏の学生の参加を受け入れることにより、ソーシャルアートプロジェクトをはじめとするアートマネジメントについて学び実践する機会を提供する役割を担っている。また、参加する学生たちが事業者と参加者の架け橋としての役割を果たしており、本事業の成功になくてはならない存在となっている。 ・本事業の一部は、西成区の他事業であるプレーパーク事業「にしなりジャガピーパーク」との共同開催があり、参加者に創造性豊かで制約のない表現活動の場を提供している。この創造的で実験的な表現活動は、安全な環境で自由に遊ぶことと似ており、参加者にとって新たな表現の形を探求するための相乗効果を生み出している。このような自由な表現活動は、子どもから大人まで、参加者一人ひとりの創造性を引き出し、表現の幅を広げる助けとなっていると考える。 ・決められた「美しさ」や「正しさ」を追求するのではなく、参加者自身が美しさや面白さを発見し、そのプロセスを通じて新しい価値を生み出す活動であり、表現者と鑑賞者双方にとって有意義な創造活動の場を提供し、地域に根ざしたアートプロジェクトとしての意義を持っている。これらの活動は、大阪市文化課による文化事業の中でも特に貴重な存在である。 ・ただし、興味を持った市民への情報提供には改善の余地がある。ウェブサイトの内容やその他の情報発信手段を通じて、活動の具体的な内容や背景にある思いをより詳細に伝えることが求められる。今後は、活動の実施だけでなく、その活動を理解しやすくするための情報発信にも力を入れて欲しい。
デジタル技術を活用した大阪のにぎわい創出事業（文化財魅力発信）	【事業実績など】 ・「旧桜宮公会堂　明治の饗宴～泉布観VR完成披露上映会～」開催（R6.3.22）※泉布観一般公開に合わせて開催
	【アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ・大阪に現存する最古の洋風建築であり、国指定重要文化財でもある「泉布観」を含む「泉布観地区」について、この歴史的建造物の魅力をより広く伝えるために、VR技術を活用した動画の制作がなされた。このVR動画では、泉布観の豊かな歴史がコンパクトにまとめられており、大人だけでなく、歴史に興味を持つ小学生の高学年にも理解しやすい内容になっている。また、老朽化などの理由で一般公開されていない泉布観内部を、このVR動画を通じて視聴できる点はとても興味深いものである。 ・インターネット上で日本語、英語、中国語、韓国語の４言語による発信が行われており、泉布観の歴史的価値の向上とともに、その知名度向上にも大きく寄与している。
デジタル技術を活用した大阪のにぎわい創出事業（博物館の魅力創出）	【事業実績など】 ・令和６年１月　「大阪博」Webサイトを公開（大阪市博物館機構が実施）
	【アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ・本事業の成果は、博物館機構において実施する「大阪博」関連のウェブサイトの公開であり、６館によって選定された収蔵品「大阪の宝」の高精細画像が公開されている。画像は面白い切り口のテーマに沿ってデジタル展示されており、これによりデジタル技術を活用して特色ある６つの博物館施設の魅力が発信されている。2025年の市立美術館のリニューアルオープンや大阪・関西万博を契機として、来訪を促進し新たな来館者の獲得に繋がると期待する。 ・今後は本ウェブサイトにおいて、6つの各館の周辺施設や観光・交通事業者情報を加えることで、さらに周遊の助けとなる情報の提供を検討して欲しい。また、訪問者が滞在時間や趣味嗜好に合わせて選べるように、モデルコースを含むいくつかのパターンの提示があっても良いのではないか。本ウェブサイトをデジタルアーカイブとしてだけでなく、文化観光のリソースとしてさらに充実させることも検討して欲しい。

施策の方向性C「文化が社会を形成する」

①芸術文化の有する地域力向上や社会包摂の機能を生かした共生への取組みの促進

事　業　名	実　績　・　評　価
地域文化事業	【事業実績など】 ・淀川区『「１千人の第九」コンサート』ほか７区で開催
	【アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ・地域の文化芸術活動をより住民に寄り添い、活性化させることを目指す事業であり、区CM制度を利用し、着実に成果を上げていることを評価する。 ・地域の文化芸術関係者にとって、各行政区と接点を持つ貴重な機会であり、行政職員と文化芸術関係者間のコミュニケーションを促進する場としての役割を果たしていることを認識して欲しい。 ・昨年度の事業評価を踏まえ、本年度からは、実施事業の一部に対し、各区の職員だけでなく、大阪アーツカウンシルの視察も行われるようになった。この取り組みは、事業担当者との意見交換の機会を提供し、アーティストやマネジメント人材の育成観点からも、本事業のより効果的な実施に寄与していると考える。 ・参加を希望する行政区を増やすための取り組みとして、すでに事例の共有が行われている。しかし、地元のアーティストや文化芸術団体とのコネクションがない行政区や、本事業への参加が初めての職員が担当する場合、本事業の存在を知っていても積極的に参加を表明することは難しい。この課題に対処するため、大阪アーツカウンシルなどと協働して、本事業の説明会や相談会を開催することを提案したい。これは、各行政区や担当職員への支援を強化し、各行政区において文化芸術活動の地域社会への浸透を促進するための一歩になりうると考える。
文学碑記念の集い 文学碑維持管理	【文学碑記念の集い事業実績など】 ・「第43回文学碑記念の集い」（R5.10.28　太平寺） ・参加者数：62人 ・出演者：恩田雅和（もと天満天神繁昌亭支配人）・旭堂南龍（講談師）
	【文学碑維持管理事業実績など】 ・北区内の（水上瀧太郎碑、森本薫碑）の2基について現状確認及び必要な整備を実施
	【アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ・10月に開催された第43回文学碑記念の集いは、大阪の文学と寄席文化の結びつきを掘り下げる興味深いイベントであった。もと天満天神繁昌亭の支配人である恩田雅和氏は「大阪の作家たちと寄席文化」というテーマで講演を行い、大澤垣夫、織田作之助、開高健といった大阪を代表する作家たちのストーリーと、彼らと寄席文化との関連性について語り、参加者にとって深い洞察を提供していた。後半では、人気講談師の旭堂南龍氏が「おぼろの便り」を披露し、会場は文学と寄席の世界に魅了された。本事業は、四天王寺の太平寺で開催され、秋の昼下がりに文学にゆかりの深い場所で、文学と寄席文化の粋を体感することができるものであった。 ・参加者のアンケートによると、71％の人が初めて本事業に参加し、93％の人が大阪の文化を再認識できたと回答していたとのことで、本事業が充実した成果を上げていることが示されている。これは、「大阪は文学の街」というイメージを維持し、さらに発展させるための重要なステップである。派手さはないかもしれないが、参加者にとって意義深い体験を提供することに成功していたと考える。 ・今後の出演者選定に関しては、潤沢な事業予算ではないものの、出演者にとっては大阪市文化課の所管事業として請負出演となり、大きなステップアップになるものである。例えば、別事業である芸術活動振興事業助成金で一定の成果を収めている実演者に出演依頼をすることが考えられる。当該助成金は大阪アーツカウンシルが採択審査や視察などの事業検証を担当しており、その推薦を受けることも可能である。このようなアプローチは、質の高い出演者を確保し本事業の魅力をさらに高めるとともに、大阪で活動する文化芸術関係者への支援ともなるのではないか。 ・大阪は日本屈指の文学の街としてのポテンシャルを持ちながら、その魅力は文学ファンの間に限定されがちである。文学と地域文化を結びつける数多くの文学碑が市内に点在しており、これらを可視化する本事業によって、その価値をさらに高めることができる。さらに、他の事業との連携を通じて、大阪の文学的歴史を豊かにすることができる可能性を秘めていると考える。 ・文学碑をただの歴史的な石碑以上のものとして、市民や訪れる人々に身近に感じてもらう必要がある。例えば、文学と観光を組み合わせた街歩きの観光パンフレットの作成や、教育プログラムとの連携によって、文学碑が大阪の国語教育や地域の歴史の学びにどう貢献できるかを探ることが考えられる。

クラシック音楽 普及促進事業	【事業実績など】 ・「にしなりクラシック ～ 春を彩るフレンチプログラム ～」 （R6.3.30開催予定　大阪フィルハーモニー会館　来場者数：290人（R4実績）） ・大阪フィルハーモニー会館　市民利用割合　34.3%（2月末時点）
	【アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ・大阪市西成区に位置する「大阪フィルハーモニー会館」を、音楽練習や発表の場として市民に開放されることで、クラシック音楽の普及を目指す事業である。市内におけるクラシック音楽専用の公共施設が不在である現状を背景に、公共により音楽家や音楽愛好家に創造環境を提供するという意義深いものである。 ・コロナ禍による利用率の低下から立ち直りつつある現在でも、本施設が市民スタジオとして利用可能であることを知る人はまだまだ少ないのが現状である。このため、更なる認知度向上に向けた努力が求められる。本事業の専用HPの開設までは必要ないが、本事業の受託者である大阪フィルハーモニー交響楽団のHP内にある大阪フィルハーモニー会館の利用に関するページにおいて、利用者がより分かりやすく必要な情報を提供することを心がけて欲しい。 ・効果的な利用促進策として、利用者のアンケート調査を行い、ユーザーが求める機能や設備についてのフィードバックを得ることを検討して欲しい。その結果に応じて、施設のサービスを可能な限り改善し、より魅力的な利用環境を提供に努める必要がある。 ・本施設は駅からのアクセスも優れており、アーティストや実演団体などからもニーズがあると考えられる。HPに限らずSNSなどでも積極的に貸館情報（施設について、時間帯や料金、使用方法など）などについての発信を行い、貸館使用率の向上を図って欲しい。 ・西成区民に地域への誇りと愛着そしてオーケストラへの親しみを感じてもらえる取り組みとして、区役所との連携に留まらず、地元の商店や事業所などとの連携を図り、区民の参加をより促進させる取り組みを期待する。

②文化財や史跡の保存・活用・継承

事　業　名	実　績　・　評　価
中央公会堂管理運営	【事業実績など】 ・集会室等（大集会室・中集会室・小集会室）の利用率　65.8%（2月末時点） ・全国的な又は国際的な学会等大阪の都市魅力の発信に資する催しの誘致件数　9件（2月末時点） ・中之島地区の他施設との連携によるイベント（中之島の名建築【中央公会堂・府立図書館・日本銀行】を巡るツアーや、府立中之島図書館：ガイドツアーコラボ、こども本の森：特別講演会共催）を積極的にい実施し、中之島エリアー帯の賑わいに貢献。
	【アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ・本施設は、近代大阪を象徴する遺産として、市民とともに育んできた貴重な文化的財産であり、大阪の文化を牽引する中之島エリアのシンボルとして位置づけられている。その存在は、重要文化財としての建物を保全し継承するという使命を担うとともに、市民の文化活動の場として現役で機能し続けている。こうした背景から、施設管理運営の重要性がますます高まっており、その価値は市民のシビックプライドにも繋がっていると考える。 ・大集会室のオペラカーテンの交換をはじめ、老朽化に対する設備改修には特に注力されており、すべての利用者が快適に利用できるよう対策を行いつつ、障がいを持つ方や外国人訪問者を含めたアクセシビリティの向上にも努めていることを評価したい。 ・メディアにも頻繁に登場し、NHKの連続テレビ小説『ブギウギ』の舞台となったり、在阪楽団が演奏会を開催する様子がクラシック音楽番組で放映されるなど、その知名度を大阪だけでなくより広い範囲に向けて高めている。これらの利用は、本施設の文化的価値を一層際立たせるとともに、地域社会における文化活動の充実に貢献している。 ・しかし、物価高騰の影響で、本施設の維持管理費が異常に高騰しているという課題がある。また、市条例により利用料金の変更が難しいため、指定管理者の経済的な負担が増大している。指定管理者の状況を鑑み、本施設の持続可能な運営を確保するための適切な対応策が求められる。
史跡難波宮跡 維持管理	【事業実績など】 ・維持管理業務（清掃、除草、巡回など） ・フードイベント「NANIWANOMIYA　WORLD KITCHEN FEST．」（魅力向上業務）にて史跡難波宮跡の紹介ブース設置 ・市民活動を育み・サポートする取組み「なにわのみや1400プロジェクト」（魅力向上業務）開始
	【アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ・古くからの歴史文化が詰まっているエリアにおいて、その歴史的・文化的資産を活用するための整備計画に基づき、安全に維持管理が行われたことを評価したい。 ・南部エリアと北部エリアでそれぞれの活用計画があるが、その中で現在の大阪の文化や芸術との相乗効果が期待できる取り組みを将来的に期待したい。